

(第7号様式の2)

## 事業報告書

(※必要に応じて枠を広げてご記入ください。)

|          |   |
|----------|---|
| 1 事業名    | アンダーコロナにおける地域防災モデル調査事業(曙小学校区)   |
| 2 事業実施期間 | 2020年 7月 ～ 2021年 2月   |
| 3 事業目的   | <p>①事業計画に至る背景(コロナ禍における現状と課題)<br/>「コロナ禍に苦しむ今、大規模災害が発災したら」そのもしもに備える「地域防災モデル」を調査する事業が必要だと考え、今年度は曙小学校を対象に学校・児童生徒・地域・行政に対してより大きな社会的成果をもたらすプロジェクトとして位置づけ、アンダーコロナ禍における地域防災の在り方を考えていく為の調査を行いました。</p> <p>②事業を行う必要性(ニーズ)<br/>従来の指定避難所のあり方では「密閉・密集・密接」の3密を避けられないことから、学校の施設を広く使い、コロナ感染リスクがある中での避難行動や避難所生活を適切に行う方法を調査・検証を行い、またそれらに関わる情報や調査内容を学校や地域へ提供し、地域防災力向上を図りました。</p> <p>③市民や地域の公益性(社会貢献度)<br/>災害プラットフォームの機能である、各種機関や団体、地域連携・協働につながるコーディネート力を生かし、曙小学校および校区まちづくり協議会、若狭公民館、包括支援センター、社会福祉協議会および近隣自治会等によるゆるやかな協議体を形成し、災害時はもとよりコロナ第2波における支援体制の再編や要援護者の見守りのさらなる進展を狙う。コロナや災害にもしなやかに対応できる「地域防災力」を高める事業であると位置づけました。</p> |
| 4 事業内容   | <p>①具体的な実施内容(対象者や実施場所、何をいつ実施したかなど)<br/>【曙小学校内避難ゾーニングシミュレーション】<br/>対象者:曙小学校および曙小学校区関係者<br/>実施場所:曙小学校内<br/>内容:曙小学校での研修及び現地調査は、学校現場のコロナ対応や緊急事態宣言の再発令により難航。しかし9月末には曙小学校区まちづくり協議会の役員会に出席でき、11月に曙小学校における避難所ゾーニングシミュレーション</p>  |

ンを行う事となった。10月には、11月に行った避難所ゾーニングシミュレーション(曙小学校舎内ぼうさいさんぽ)に向けて、施設見取り図やシミュレーションで必要となる避難所開設時の基礎情報やチェックリストを作成し、コロナ禍における収容人数計算等の準備を行った。11月には曙小学校にて避難所ゾーニングシミュレーションを実施。校長、教頭をはじめとした学校関係者、曙小学校区まちづくり協議会、社会福祉協議会、DMP0、その他曙小学校区で活動される方、約15名ほどの参加があり、実施後は振り返り会も行い今後の課題などについても話し合う場を設けました。

**【コロナ禍における台風避難所運営の現状及び課題調査】**

対象者:台風避難所運営者(公民館など)

実施場所:各避難所

内容:8月末、台風9,10号の接近に伴い、公民館や市役所での避難所開設が行われた。9月、DMP0ではリアルタイムの台風情報の発信を各種SNS等で行い、現場にも足を運び、コロナ禍での避難所運営の現状について記録を行った。台風通過後は避難所開設された13拠点の内6拠点に事後ヒアリングを実施。那覇市と相談し、当初予定していた曙小学校教職員向けの講座実施を変更し、学校避難所運営を考える上での最新データとして、台風9,10号で開設された那覇市内の避難所に関する施設ヒアリングをまとめて提供する事とした。

上記①の内容は1つの調査報告書としてまとめ、曙小学校および曙小学校区関係者へ提供を行った。

**②事業の周知方法**

**【ラジオ等のメディア媒体を利用した情報発信】**

内容:調査手法や結果等をまとめてwebやラジオ等で発信。コミュニティFM(FM那覇)では、企画の進捗から実施、成果、検証にいたるまで、番組制作や定期的な放送を通じて、広く市民に周知を行いました。

**③コロナウィルス感染症対策(感染拡大防止に対する対応)**

内容:大規模災害発災時での避難所等におけるコロナ感染症拡大防止策のシミュレーション行う為、ソーシャルディスタンスを考慮した空間確保、体調不良者とのゾーニングや導線の考慮など、実際のマスク着用なども行いながらコロナ禍における避難所での感染症拡大防止に対する対策を検討した。

|                     |  |
|---------------------|--|
| <p>5 事業効果・今後の展開</p> | <p>①期待される効果<br/>       今回のコロナ禍におけるゾーニングシミュレーションおよび台風避難所運営の現状と課題調査の内容提供をし、地域および行政とともに検証を重ねていく事で、アンダーコロナにおける地域防災モデルが構築されていく事が期待されます。「子供たち、そして教育をどう守るか」そして「地域の命をどう守るか」、小学校区における地域防災力とは、防災だけではなくコミュニティや仕組みとして様々な立場の人たち、そして様々な視点からの連携が必要不可欠であります。「コロナ禍に苦しむ今、大規模災害が発災したら」そのもしもに備える地域防災モデルを調査をした本事業の成果を、次なる地域防災の土台づくり、そして効果的な取り組みに生かしていく事で「ともに、このまちで生きる」事が実現できる一助になればと強く思います。また次年度以降は学校・地域との協働による各種防災・キャンプ実践を通して事例化/モデル化するとともに、行政や他地域のモデルとなるようマニュアル化/データ化を目指しています。加えて、災害時はもとよりコロナ第4波など次なる感染拡大における支援体制の再編や要援護者の見守りのさらなる進展も期待する効果として考えます。</p> <p>②次年度以降の展開について<br/>       次年度以降は、今回の調査事業を踏まえて、防災訓練や防災キャンプ等の実践・検証を行い、実践を含めたアンダーコロナにおける地域防災モデル事業の報告書作成、また引き続きウェブサイトやラジオ等を通じた情報発信による他地域への横展開を図る。</p> |
| <p>6 その他反省点など</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の調査事業では校長先生および教頭先生も前向きに関わって頂き、毎年の避難訓練等も積極的に行っている事からリーダーの防災/災害意識の高さを感じることができました。しかし曙小学校区として防災/災害担当やチームの設置はどういった形態が良いのかも含めて検討が必要となっています。また、校長先生や教頭先生の「異動」等に伴う引き継ぎや防災/災害に対する取り組みの持続可能性の向上は引き続き考えていくべき点であるといえます。</li> <li>・学校の教職員だけではなく、実際台風時に避難所を開設した公民館や小学校区まちづくり協議会、社会福祉協議会、民生委員、その他曙小学校区で活動される方の参画があり、様々な立場からの現状や視点で意見交換を行うことができましたが、しかし、まだそれら意見や現状を網羅的に踏まえた上での課題設定や目標設定までの議論は引き続き必要となる点であると考えています。</li> <li>・曙小学校区まちづくり協議会も、役員に高齢者が多く、新型</li> </ul>   |

|  |   |  |
|--|---|--|
|  | <p>コロナ感染拡大防止から個別の会合は持ちにくい状況にあるといえる。また、まち協に防災に特化した組織がなく、防災活動をやりたいという意思は強いものの組織だっではないため（本事業はまさにそこを作っていたのが狙いだ）、日常的に打ち合わせを重ねながら企画を練っていくことができず、どうしても地域と協働する機会が少なくなる。毎月の定例役員会での報告/検討が主になるが、役員会での報告事項は多岐にわたるため、本事業を検討する時間も限られるという課題もあった。</p> |  |
| <p>7 スケジュール<br/>(なるべく詳細に記入してください。)</p> | <p>時期</p>   | <p>内容（場所・参加対象・人数など）</p>  |
|  | <p>7月</p>   | <p>コミュニティラジオFMなはにて「okinawa B-camp」スタート。稲垣がメインパーソナリティ、宮平がミキサーを務め、本事業での取り組みやその他防災にまつわる発信を行った。（継続中）。</p>  |
|  | <p>8月</p>   | <p>曙小学校での研修及び現地調査は、学校現場のコロナ対応や緊急事態宣言の再発令により難航。月末には台風9,10号の接近に伴い、公民館や市役所での避難所開設が行われた。</p>   |
|  | <p>9月</p>   | <p>リアルタイムの台風情報の発信を各種SNS等で行い、現場にも足を運び、コロナ禍での避難所運営の現状について記録を行った。台風通過後は避難所開設された13拠点の内6拠点に事後ヒアリングを実施。学校避難所運営を考える上での最新データとして、台風9,10号で開設された那覇市内の避難所に関する施設ヒアリングをまとめて学校へ提供する事とした。月末には曙小学校区まちづくり協議会の役員会に出席し、事業の共有とゾーニングシミュレーション実施への協力を得られた。</p> |
|  | <p>10月</p>  | <p>11月の避難所ゾーニングシミュレーション(実施名:曙小学校舎内ぼうさいさんぽ)に向けて、施設見取り図やシミュレーションで必要となる避難所開設時の基礎情報やチェックリスト、コロナ禍における収容人数計算等の準備を行った。</p>  |
| <p>11月</p>                             | <p>曙小学校にて曙小学校舎内ぼうさいさ</p>  |  |

|  |       |   |
|--|-------|---|
|  |       | んぼを実施。校長、教頭をはじめとした学校関係者、曙小学校区まちづくり協議会、社会福祉協議会、DMPO、その他曙小学校区で活動される方、約15名ほどの参加があり、この日はRBC取材も入った実施となった。  |
|  | 12月   | 曙小学校区の曙小学校舎内ぼうさいさんぽの記録を活用し、12月13日は若狭公民館の防災キャンプ事業にも絡めて、「なは防災キャンプ'20冬講演会-地域と防災-」にて、本事業での曙小学校区調査の内容も踏まえて「曙小学校区の災害リスクと資源」をテーマに講話を行った。本事業の目標とする学校と地域による防災連携モデルづくりにつながるよう若狭公民館との協働実践を行った。 |
|  | 1月-2月 | 曙小学校における曙小学校舎内ぼうさいさんぽの実施成果および台風9,10号で開設された那覇市内の避難所に関する施設ヒアリング内容をまとめ、提供資料作成などに入る。  |
|  | 2月    | 【報告書提出】なは市民活動支援センターへ提出  |
|  | 3月    | 【成果発表会】なは市民活動支援センターにて3人参加予定。3月11日に曙小学校での避難訓練に協力/参加予定(コロナの状況次第では、稲垣のみで生徒に対する講演会になる可能性あり)。また、3月21日にも若狭公民館の防災キャンプ事業にも絡めて、「なは防災キャンプ'20春講演会」として協働実践を行う予定。                                |

8 事業実施に関する支援団体の有無（該当する箇所に☑等を記入してください。）

- 行政との協働  
 企画に協力       資金提供       告知などの協力  
 無し

協働の内容

・関係各所および対象の曙小学校区関係者との連携しながら本事業も進めて行き、地域防災力に繋がる体制構築、協働予定をしています。(曙小学校、曙小学校区まちづくり協議会、若狭公民館、人も犬も猫も幸せ！な街づくり隊Okinawa等)

・コミュニティラジオFMなはにて「okinawa B-camp」スタート。稲垣がメインパーソナリティ、宮平がミキサーを務め、本事業での取り組みやその他防災にまつわる発信を行う(継続中)

・本事業の曙小学校区の記録を活用し、12月13日は若狭公民館の防災キャンプ事業にも絡

めて、「なは防災キャンプ'20冬講演会-地域と防災-」にて、本事業での曙小学校区調査の内容も踏まえて「曙小学校区の災害リスクと資源」をテーマに講話を行った。本事業の目標とする学校と地域による防災連携モデルづくりにつながるよう若狭公民館との協働実践を行った。

・2月16日に石嶺まちづくり協議会向けにの「あしもとから考える首里石嶺町の防災」というテーマでの講話を行った。(日暮の身又組叶について、一部紹介した)

・3月11日に曙小学校での避難訓練に協力/参加予定(コロナの状況次第では、稲垣のみで生徒に対する講演会になる可能性あり)

・また、3月21日にも若狭公民館の防災キャンプ事業にも絡めて、「なは防災キャンプ'20春講演会」として協働実践を行う予定。